

# 株主の皆様へ

第165期第1四半期報告書

平成24年4月1日から平成24年6月30日まで

**Logistics Information Technology**

# 第1四半期(連結)のハイライト

	平成25年3月期第1四半期	平成24年3月期(参考)
営業収益	<b>342億7,100万円</b> (前同期比+28.1%)	1,073億4,400万円
営業利益	<b>12億4,200万円</b> (前同期比-26.4%)	67億3,100万円
経常利益	<b>10億7,800万円</b> (前同期比-19.6%)	52億5,100万円
四半期(当期)純利益	<b>2億9,500万円</b> (前同期比-83.5%)	21億5,100万円
1株当たり四半期(当期)純利益	<b>2円38銭</b> (前同期比-83.5%)	17円32銭

<平成25年3月期の連結業績予想> 営業収益▶1,580億円 営業利益▶74億円 経常利益▶56億円 当期純利益▶32億円

## 目次

ごあいさつ	1
第1四半期(連結)の概況	2
トピックス	4
会社の概要	5
株式の状況	5

### <注記>

この冊子においては、将来の見通しに関する記述が様々な表現でなされており、その見通しはリスクや不確実性に左右され、実際の結果と大きく異なることも考えられます。読者の皆様には、これらの将来に関する記述に過度に依存なさらないようお願いいたします。



代表取締役社長 藤岡 圭

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第165期第1四半期の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

当第1四半期におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景として緩やかに回復の兆しも見られるものの、欧州の経済不安や円高の影響等により、本格的な回復には程遠い状況が続いております。

このような中、国内物流事業は保管残高の回復などにより前年同期に比べ増収増益となりました。港湾運送事業は、取扱が堅調で増収となったものの、関西地域でのターミナル使用条件の変更などもあり減益となりました。また、国際輸送事業では主に航空貨物の取扱が低調に推移し、グローバルネットワーク事業は北米、欧州、及び北東アジア、東南アジアの一部地域での取扱量が減少、さらに、不動産事業が前期に資産効率改善の観点から賃貸物流施設を売却したことから、それぞれ減収減益となりました。一方、ロジスティクスシステム事業は当第1四半期より新たにグループ入りした三井倉庫ロジスティクス株式会社が寄与したことから、またBPO事業も既存顧客の発送代行業務の拡大などが寄与したことからそれぞれ増収増益となりました。連結業績全体では営業収益は増加したものの、営業利益は減少しました。

当社グループでは、中期経営計画によって、市場・顧客のニーズを的確に捉えた魅力あるサービスを国内外のマーケットに投入するとともに、既存物流事業の業務構造改革による競争力の強化と、新たな物流事業の創生による収益源の確保に取り組んでおります。

この第1四半期には、買収により子会社とした三井倉庫ロジスティクス株式会社が発足し、同社の家電分野を中心とした3PL事業で培った多彩なノウハウと、最先端のITシステムや全国に展開する物流網を最大限に活用することで、よりよい物流プラットフォームの構築を進めてまいります。

また、7月1日には、株式会社三井倉庫エアカーゴとトヨタ自動車株式会社の子会社であるTASエクスプレス株式会社が合併し、三井倉庫エクスプレス株式会社が誕生いたしました。2社の統合によるシナジー効果により、当社グループの国際輸送事業を一層拡充強化しております。さらに、本年11月竣工を目指して神戸市で建設を進めている医薬品専用倉庫など、設備投資を進める一方、健全な財務体質を確保するべく、100億円の社債を発行いたしました。

これら一連の取り組みの積み重ねによって、業績の着実な伸長と持続的な企業価値の向上をはかってまいりますので、株主の皆様には、こうした当社の考えをご理解いただき、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年9月

# 第1四半期(連結)の概況 (平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)

## 全般の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要等を背景として緩やかに回復しつつあるものの、4月から6月の鉱工業生産指数が3ヶ月連続で前月比マイナスとなるなど、依然として、本格的な回復には程遠い状況が続いております。

物流業界におきましても、営業普通倉庫21社統計1~3類倉庫の保管残高は徐々に回復しつつあるものの、一方で、欧州や中国など世界経済の拡大スピードの鈍化や円高の影響などから輸出取扱が前月比減少に転じるなど、厳しい状況が続いております。

こうした経済環境の中、当第1四半期連結累計期間の業績は、国内物流事業は保管残高が回復したことなどから増収増益となりました。港湾運送事業は、既存顧客船社の輸出取扱回復や新規航路の開設などにより増収となったものの、関西地域でのターミナル使用条件の変更などもあり減益となりました。国際輸送事業は、主に航空貨物の取扱が低調に推移したことなどから減収減益となり、グローバルネットワーク事業は、北米、欧州、及び北東アジア、東南アジアの一部地域での取扱量の減少から、全体として減収減益となりました。ロジスティクスシステム事業は、当第1四半期連結累計期間より新たに当社グループ入りした三井倉庫ロジスティクス株式会社の業績が寄与したことから増収増益となりました。BPO事業は、既存顧客の発送代行業務の拡大などが寄与したことから増収増益となりました。また、不動産事業においては、前期に資産効率改善の観点から賃貸物流施設を売却したことから減収減益となりました。

これらの結果、連結営業収益は前年同期比75億8百万円増の342億7千1百万円、連結営業利益は同4億4千4百万円減の12億4千2百万円、連結経常利益は同2億6千2百万円減の10億7千8百万円となり、連結四半期純利益は同14億9千5百万円減の2億9千5百万円となりました。

## 財政状態の変動状況

当第1四半期連結累計期間末の総資産は、三井倉庫ロジスティクス株式会社取得に伴うのれんの計上、TASエクスプレス株式会社の株式取得に伴う投資有価証券の増加などにより、全体としては前連結会計年度末比272億4千3百万円増加し、2,245億8千1百万円になりました。

純資産は、四半期純利益の計上はあったものの、配当金の支払などにより、前連結会計年度末比3億1千万円減少し、505億4千1百万円になりました。

## キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上はあったものの、三井倉庫ロジスティクス株式会社の取扱が6月に急伸したことに伴い、当第1四半期連結累計期間末の売上債権が増加したことなどから、全体として8億5千9百万円の支出となり、前年同期に比べ34億7百万円の収入減となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、三井倉庫ロジスティクス株式会社、TASエクスプレス株式会社の株式取得に係る支出があったことから294億1千6百万円の支出となり、前年同期に比べ307億4千5百万円の支出増となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行や長期借入による収入があったことから99億8百万円の収入となり、前年同期に比べ71億4千万円の収入増となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結累計期間末残高は、前連結会計年度末より76億8千9百万円増の317億8千4百万円となりました。

(単位：百万円)

	第1四半期 (3ヵ月累計)	第2四半期予想 (3ヵ月累計)	第2四半期連結累計期間予想 (6ヵ月累計)	通期予想 (平成25年3月期)	前通期実績 (平成24年3月期)
営業収益	34,271	39,728	74,000	158,000	107,344
営業利益	1,242	1,357	2,600	7,400	6,731
経常利益	1,078	921	2,000	5,600	5,251
当期純利益	295	304	600	3,200	2,151

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当第1四半期末 平成24年6月30日	前期末 平成24年3月31日
(資産の部)		
流動資産	61,993	71,733
固定資産	162,588	125,604
有形固定資産	111,478	99,992
無形固定資産	27,708	8,071
投資その他の資産	23,401	17,540
資産合計	224,581	197,338
(負債の部)		
流動負債	63,567	47,589
固定負債	110,472	98,896
負債合計	174,040	146,485
(純資産の部)		
資本金	11,100	11,100
資本剰余金	5,563	5,563
利益剰余金	33,739	34,002
自己株式	△99	△99
その他有価証券評価差額金	1,601	2,101
繰延ヘッジ損益	△1	—
為替換算調整勘定	△2,126	△2,532
少数株主持分	764	716
純資産合計	50,541	50,852
負債純資産合計	224,581	197,338

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第1四半期 平成24年4月1日から 平成24年6月30日まで	前年同期 平成23年4月1日から 平成23年6月30日まで
少数株主損益調整前四半期純利益	292	1,814
その他の包括利益	△59	116
その他有価証券評価差額金	△515	△77
繰延ヘッジ損益	△1	—
為替換算調整勘定	444	192
持分法適用会社に対する持分相当額	12	1
四半期包括利益	232	1,930
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	200	1,879
少数株主に係る四半期包括利益	32	51

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第1四半期 平成24年4月1日から 平成24年6月30日まで	前年同期 平成23年4月1日から 平成23年6月30日まで
営業収益	34,271	26,762
営業原価	29,975	22,979
営業総利益	4,296	3,783
販売費及び一般管理費	3,053	2,096
営業利益	1,242	1,686
営業外収益	452	276
営業外費用	616	622
経常利益	1,078	1,340
特別利益	—	1,862
特別損失	226	49
税金等調整前四半期純利益	851	3,153
法人税等	559	1,339
少数株主損益調整前四半期純利益	292	1,814
少数株主利益又は損失(△)	△3	22
四半期純利益	295	1,791

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当第1四半期 平成24年4月1日から 平成24年6月30日まで	前年同期 平成23年4月1日から 平成23年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△859	2,547
投資活動によるキャッシュ・フロー	△29,416	1,329
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,908	2,767
現金及び現金同等物に係る換算差額	213	88
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△20,154	6,733
現金及び現金同等物の期首残高	51,934	17,361
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	3	—
現金及び現金同等物四半期末残高	31,784	24,094

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 三井倉庫エクスプレス株式会社が発足

### －国際輸送事業を今後の成長ビジネスの源泉へ－

当社は、トヨタ自動車株式会社の子会社で、航空貨物運送を主に国際輸送事業を手掛けるTASエクスプレス株式会社（TAS）の株式の一部を取得し、2012年7月1日、当社子会社の株式会社三井倉庫エアカーゴ（MSA）と合併させ、社名を「三井倉庫エクスプレス株式会社」に変更して、新たなスタートを切ることとなりました。

#### 三井倉庫エクスプレス（株）の概要

本社所在地：東京都港区西新橋三丁目20番1号  
 資本金：400百万円  
 代表取締役：中島 正則  
 主な事業：IATA公認貨物代理店  
           貨物利用運送業（航空、海上貨物、自動車）  
           通関業  
           損害保険代理店業  
 国内営業所：東京、千葉、大阪、愛知、福岡  
 海外現地法人：アメリカ、タイ、中国、インド、  
                   インドネシア、ベルギー、イギリス、  
                   チェコ、トルコ、南アフリカ

当社グループは中期経営計画のもと、今後の成長の源泉となる事業の育成を進めており、今回の合併は、両社の擁する航空貨物運送事業の統合によりシナジー効果が発揮され、国際輸送事業のさらなる発展につながるとの判断により実現したものです。

TASは1966年に設立し1986年以降はトヨタ自動車グループの一員として自動車部品輸送に強みを発揮してきました。一方、MSAは1969年に株式会社日本交通公社（現：（株）ジェイティービー）の子会社として設立され、2011年に当社グループの一員となり、一般航空貨物から海外引越サービスやペット輸送まで幅広いサービスを提供してきました。

これまでメーカー物流の一翼を担ってきたTASのノウハウと、MSAのきめ細やかな国際物流サービスを結合することにより、新たに誕生した三井倉庫エクスプレス株式会社は、国内10拠点、国外27拠点（他に代理店多数）の広範なグローバルネットワークを基盤に、お客様のあらゆるご要望に応え、これまで以上に付加価値の高い物流サービスを提供していきます。

## 会社の概要

- 商号 三井倉庫株式会社  
(英文社名：MITSUI-SOKO Co.,Ltd.)
  - 設立 明治42年(1909年)10月11日
  - 本社 東京都港区西新橋三丁目20番1号
  - 国内事業所 本社、関東支社、横浜支店、中部支社、  
関西支社、神戸支店、九州支社
  - 海外拠点 アメリカ、オランダ、チェコ、ポーランド、  
アラブ首長国連邦、シンガポール、  
マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、  
ベトナム、香港、中国、台湾、韓国
  - 主な営業種目 倉庫業  
港湾運送業  
国内運送業  
国際運送取扱業  
不動産賃貸業
  - 資本金 11,100,714,274円
  - 従業員 817名(他に出向者60名)  
(平成24年  
6月30日現在)
  - 三井倉庫グループ会社
- 
- 連結子会社 54社
- 
- 主要な子会社
- 三井倉庫ロジスティクス(株)
  - 三井倉庫ビジネスパートナーズ(株)
  - (株)三井倉庫エアカーゴ
  - 三井倉庫港運(株)
  - 三井倉庫九州(株)
  - MITSUI-SOKO (U. S. A.) INC.
  - MITSUI-SOKO (EUROPE) B. V.
  - MITSUI-SOKO (SINGAPORE) PTE. LTD.
  - MITEX LOGISTICS (SHANGHAI) CO., LTD.
  - MITEX INTERNATIONAL (HONG KONG) LTD.
- 
- 持分法適用関連会社 15社

## 株式の状況 (平成24年6月30日現在)

- 発行済株式の総数……124,415,013株(前期末比 増減なし)
- 株主数……………7,245名(前期末比-102名)

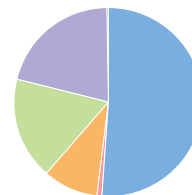
### ● 大株主(上位10名)

氏名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,645	9.4
三井生命保険株式会社	9,546	7.7
三井住友海上火災保険株式会社	7,697	6.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,995	5.6
クレディ・スイス・セキュリティーズ(ヨーロッパ)リミテッド ビービーセックイントノンティールクライアント	3,903	3.1
株式会社三井住友銀行	3,484	2.8
三井倉庫従業員持株会	2,919	2.3
ノーザン・トラスト・カンパニー・エイブイエフシー・リ ノーザン・トラスト・ガンジー・アイリツシユクライアンツ	2,792	2.2
ジュニパー	2,616	2.1
株式会社竹中工務店	2,484	2.0

(注)千株未満の株式数は切り捨てて表示しております。  
持株比率は自己株式(223,491株)を控除して算出しております。

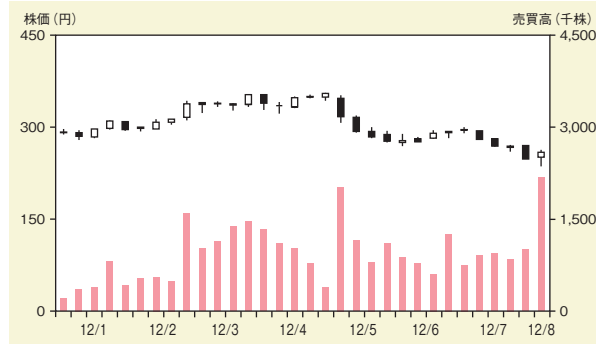
### ● 所有者別分布状況

金融機関	63,795 千株	51.3%
証券会社	1,002 千株	0.8%
国内法人	11,901 千株	9.6%
外国人	21,623 千株	17.4%
個人・その他	25,869 千株	20.8%
当社(自己株式)	223 千株	0.2%



### ● 株価及び売買高の推移(東京証券取引所)

(証券コード9302)



## ● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬に開催
同総会における議決権行使株主基準日	基準日現在1単元(1,000株)以上を有する株主 定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第1部)、大阪証券取引所(市場第1部)
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先 (郵便物送付先、電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話(フリーダイヤル)0120-782-031
同取次窓口 公告方法	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店 電子公告により、以下の当社ホームページに掲載いたします。 <a href="http://www.mitsui-soko.co.jp/">http://www.mitsui-soko.co.jp/</a>

### ■ 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設された株主様は、三井住友信託銀行株式会社(上に記載の「郵便物送付先、電話照会先」と同じです。)にお申出ください。

### ■ 未払配当金の支払のお申出先について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社(上に記載の「郵便物送付先、電話照会先」と同じです。)にお申出ください。